

■ごみ処理施設の集約化に関する方針

- ◆ふくおか県央環境広域施設組合では、スケールメリットを活かした、効率的で効果的かつ安定的なごみ処理を推進していくため、今後のごみ処理施設の集約化に向けた方針を次のとおりとりまとめた。

方針①：ごみ燃料化センターの廃止

ごみ燃料化センターは、大牟田リサイクル発電(株)とのRDF搬入の契約期間が終了する令和5年3月末をもって廃止する。

方針②：既存する可燃ごみ処理施設の再編

既存している管内の可燃ごみ処理施設4施設のうち、令和5年3月末のごみ燃料化センターの廃止に加え、躯体等の老朽化が進んでいる嘉麻クリーンセンターを休止し、令和5年4月から、飯塚市クリーンセンターと桂苑の2施設の稼働へ再編する。

方針③：新清掃工場の建設

管内におけるごみ処理を、今後も効率的で効果的に実施していくため、令和12年度以降の開設を目指す新清掃工場の建設を進める。

1. 現状の可燃ごみ処理施設4施設の概要

施設名	開設〔経過年数〕	1日当たり処理能力〔t/日〕	年間処理量〔t〕	1日当たり平均処理量〔t/日〕	年間処理経費〔単位：千円〕	t当たり処理経費〔円/t〕
飯塚市クリーンセンター	平成10年4月〔22年経過〕	180 t/日〔90 t/24 h × 2炉〕	24,121	86.1	655,168	27,162
桂苑	平成6年4月〔26年経過〕	74 t/日〔37 t/16 h × 2炉〕	16,146	57.7	366,627	22,708
嘉麻クリーンセンター	昭和62年2月〔33年経過〕	40 t/日〔20 t/16 h × 2炉〕	6,184	22.1	96,676	15,633
ごみ燃料化センター	平成14年8月〔18年経過〕	54 t/日〔54 t/14 h〕	9,001	32.1	409,812	45,530
合計		348 t	55,452	198.0 (56.90%)	1,528,283	

※年間処理量、1日当たり平均処理量、年間処理経費、t当たり処理経費は過去5年(H27~R1)間の平均値にて算出

※年間稼働日数は、一般廃棄物処理実態調査の基準に基づき、年間280日として算定

※年間処理経費は実人件費、光熱水費/燃料費/薬品費の用役費、修繕料・各種点検委託費等の維持管理費、その他の業務委託料等の経費の積み上げにて算出

※1日当たりの平均処理量の合計欄の()は定格能力に対する稼働率を記載

2. 可燃ごみ処理施設の再編方針

- ◆飯塚市、嘉麻市、桂川町管内のごみ処理を、今後、より効率的で効果的に、かつ安定的に行っていくことができるよう、令和5年3月末のごみ燃料化センターの廃止と合わせて、嘉麻クリーンセンターを休止し、令和5年4月から、2施設の稼働に見直す再編方針を取りまとめた。

【現在の稼働4施設】

飯塚市クリーンセンター
桂苑
嘉麻クリーンセンター
ごみ燃料化センター

(稼働率：56.90%)

【再編後の稼働2施設】

飯塚市クリーンセンター
桂苑

(稼働率見込：77.9%)



3. 次期清掃工場の建設方針について

- ◆現在、管内で稼働している可燃ごみ処理施設4施設のうち、令和5年4月以降も継続利用する方針とした飯塚市クリーンセンターと桂苑も、それぞれに開設後、22年以上が経過しており、老朽化が進行している。このため、両施設ともに延命化に向けた大規模改修工事を実施するか、施設を更新するかの検討とその方針決定を早期に行う必要が生じていたことから、それぞれの対策にかかる費用対効果等を勘案し、スケールメリットを活かした、効率的で効果的かつ安定的な今後のごみ処理の実現に向けて、令和12年以降の開設を目指す新たな清掃工場を建設する方針を決定し、今後、建設用地の選定を進めていくことがまとまった。